

《県営かんがい排水事業》

恩納村 喜瀬武原地区

地区の概要

恩納村は沖縄本島のほぼ中央、西側にあり、南側を読谷村、北側を名護市と境を接しています。

喜瀬武原区は、周囲を山々に囲まれた盆地に、明治時代に土族等の入植によって開かれた歴史をもつ集落です。

現在では恩納村内における主要な農産地となっており、特にキク栽培は、沖縄県における先駆的役割を担ってきた集落である。

事業概要

- (1) 受益面積；44ha
- (2) 施設概要

ため池・頭首工	各1基
ファームポンド	1カ所
配水管路	1式



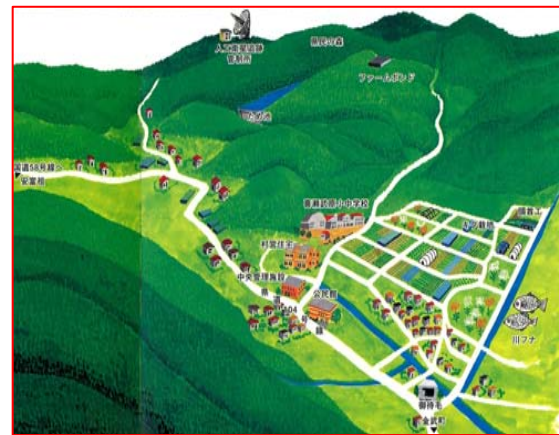
土地改良事業のあゆみ

純農村地域である喜瀬武原区は、昭和45年から土地改良事業を積極的に推進し、約50haの面的整備が平成2年迄に終了した。

そのかたわらで主要作物であるキク栽培に必要な水は、区内を流れる河川から農家各自でポンプ揚水し100m以上のパイプにより畑に水を引いている状況で、農家負担は、かなりのものであった。

さらに、渇水期においては河川の水が底をつき安定的な農業生産に支障をきたす状況であった。

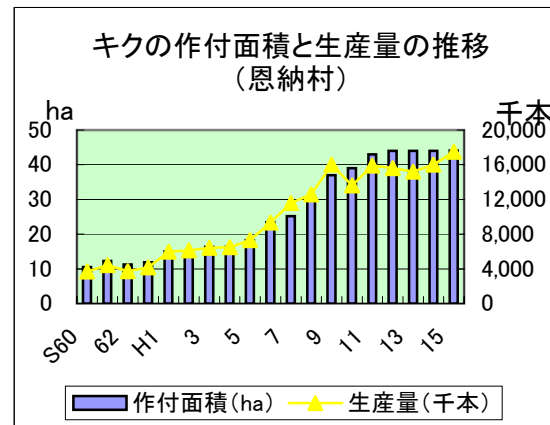
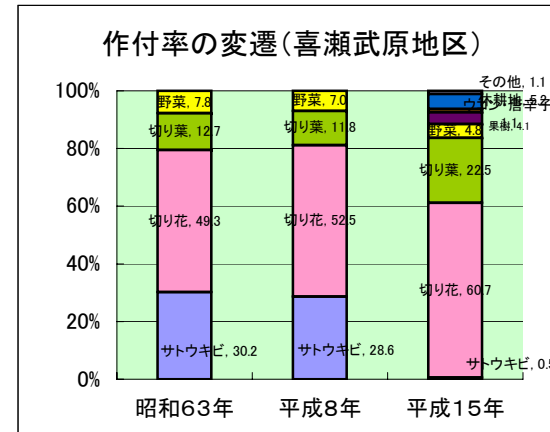
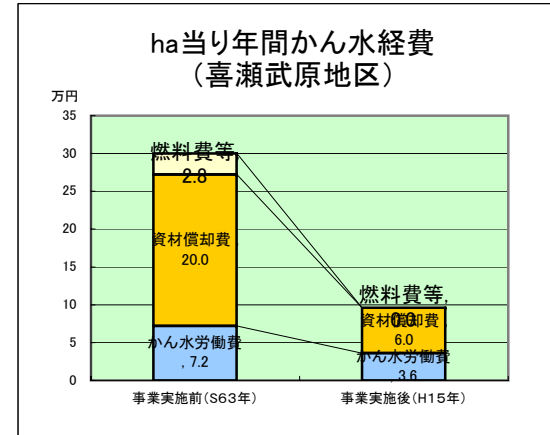
このような事情から、地元農家の熱心な要請でかんがい排水事業が平成2年から実施され、平成10年に畑かん施設が完成した。



事業実施の効果

事業実施以降、以下のような変化がみられた。

- ① かん水作業の効率化・経費の節減(図-1)
- ② さとうきびからの収益性の高い作物への転換(図-2)
- ③ 生産量の拡大(図-3)
- ④ 水棲生物の保全



これから...

畑かん事業の実施により、農業用水の安定的供給が実現した現在、農家にとっての悩みは、安定的な農業収入と環境問題である。

近年、菊の単価が低落傾向にあり、毎年、農家の手取額も安くなってきている。「(キク農家は)以前は2千坪で生活できていたのが、現在は、3千坪でないと生活できない」との声もある。今後は、キクと他の作物を組み合わせた周年出荷体制の確立を図り、安定的な農業収入を確保する必要がある。

環境面では、農薬使用の継続による環境ホルモン等の人体や自然環境への影響とマルチングとして使用した廃ビニル等の処分問題がある。農薬については、作物の初期防除に努め、減農薬栽培に努めるとともに、天敵による防除を駆使した総合防除体系の確立を目指している。

また、野焼きが禁じられていることもあって各農家は廃材の処分に苦慮している。最近土に戻るマルチング材が開発され、試験的に使用した農家もでてきているが、価格が高く、普及するまでは至っていない。

喜瀬武原区の世帯数に占める農家数は、村平均の2倍以上である24%となっているほか、農家の年齢構成も40~50代が中心となっており、当面、他地区のような後継者不足等の心配はない。



写真① 菊の栽培状況



写真② 菊の出荷準備